

平成22年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	敬老祝金支給事業				開始年度	H12	
基本目標	高齢者の生きがいづくり支援				終了年度		
担当課(局)	健康福祉課	担当係	介護高齢者福祉係	記入者	浜野智子	評価者	井上敏郎
21年度決算	3,320	千円	22年度予算	3,880	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	729 千円		22年度人件費	723 千円		事業従事者数	0.10 人 0.10 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	高齢者の長寿祝福と敬老思想の高揚
事業の内容	9/15現在、80歳、90歳、100歳、101歳以上の高齢者で支給基準を満たす対象者への敬老祝い金の支給

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 支給対象者数(人)	80歳・203名 90歳・57名 100歳以上5名 合計265名
	2 支給対象額	3,320千円
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 表敬訪問	100歳以上の長寿者に対し、町長による表敬訪問をし、祝金を支給した。
	2	
3		

◎達成状況

指標名		単位	20年度	21年度	22年度	
成果指標	支給対象者数(人)	目標値	265	296	296	
		実績値	245	265		
		達成率	92.5%	89.5%		
	支給対象額	目標値	円	4,340,000	3,880,000	3,880,000
		実績値		3,970,000	3,320,000	
		達成率	%	91.5%	85.6%	
	0		#DIV/0!	#DIV/0!		
活動指標	表敬訪問	目標値	7	10	10	
		実績値	7	5		
		達成率	100.0%	50.0%		
		0		#DIV/0!	#DIV/0!	
		0		#DIV/0!	#DIV/0!	
		0		#DIV/0!	#DIV/0!	

◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	100歳、105歳、110歳到達者には別途県、国からの祝状、記念品があるが、高齢者の長寿祝福は、他課・他団体では困難である。事業廃止及び縮小は、目標としている対象者の長寿に対する意識が低下する恐れがある。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	長寿の目標にしている対象者も多く、敬老週間に合わせて支給しているため、長寿祝福に関するイベントを実施し、地域住民との交流を図っている自治公民館も多い。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	敬老週間だけに限らず、高齢者と地域住民との交流の機会が広がる可能性がある。経費や時間の削減対象とは考えにくい。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	申請・支給は安否確認等を兼ね、民生委員に依頼している。

事務事業名	敬老祝金支給事業	担当課(局)	健康福祉課
-------	----------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	高齢者の長寿は率直に祝福すべきであるが、平成20年度の全国平均寿命が男79.29歳、女86.05歳となったいま、80歳を支給対象とするか否かを考える必要がある。(ただし、本事業はきわめて政策的要素を含んでいる。)	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充				
			現状維持					
			縮小		○			
			廃止					
			廃止	縮小	現状維持	拡充		
			コスト					

事務事業評価委員会 評価欄	事業	縮小	◎どのくらいまで縮小できるのか、検討が必要である。 ◎高齢化社会が進んでいく中、受給者の増加が見込まれる。将来推計などから検証し、支給対象年齢の検討が必要である。 (できるだけ80歳では支給の方向に、という意見もあった。)
	コスト	縮小	◎事業の目的である「長寿祝福と敬老思想の高揚」を図るための新たな事業展開を検討する必要があるのではないかと。